

陸生ホタル研

No 155 号

2026 年 7 月 25 日

陸生ホタル生態研究会事務局

電話：F A X 042-663-5130

Em:rikuseihotaru.07@jasmine.ocn.ne.jp

日本の戦後教育の歴史を伝える遺跡

「大学セミナーハウス」をたずねて

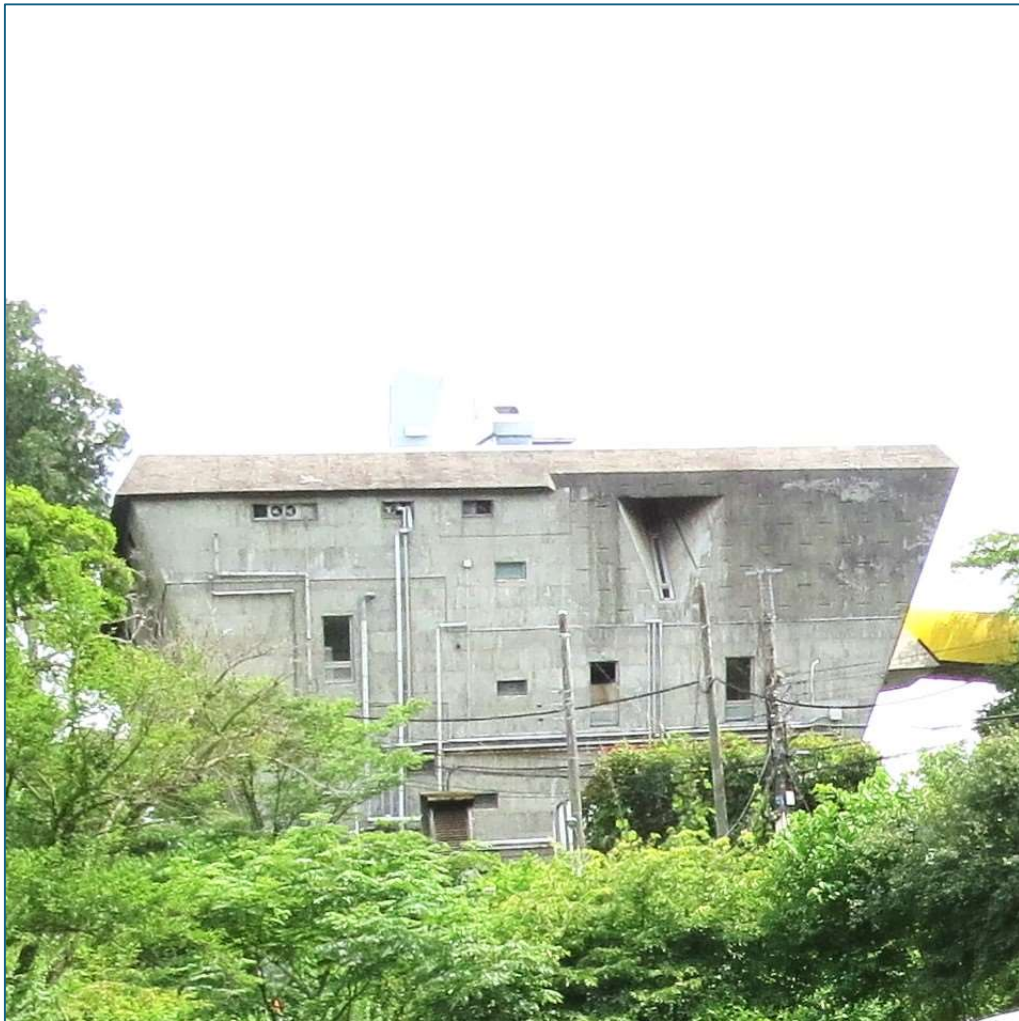
小俣軍平

東京都の多摩丘陵には、戦後の日本の歴史を伝える多様な建造物がありますが、中でも特に注目される施設があります。次の図の奥に見える建物がそれで、大学セミナーハウスといいます。

1：図



2：図 多摩の大地にビシッと撃ち込まれた楔です。



今から半世紀も昔、1960 年代に建設された地下 1 階、地上 4 階のこの建物には、当時日本の戦後教育の創造にとり組んだ東京都内の国・公・私立すべての大学の先生方の、教育に込めた熱い熱い思いが込められています。

第 2 次世界大戦でアメリカ軍の空爆を受け、東京、広島、長崎をはじめ日本中で大量の市民が死亡し、壊滅状態でした。日本の政治体制を、民主的な国家に変革するには、市民の教育の充実が最大の課題でした。それには教師たちの資質の向上が不可欠で、そのためにこの施設は東京だけでなく、全国的な規模で構想された施設です。

1963 年に私が山梨県から八王子市へ転勤し、八王子市立第七小学校の教師になった当時、東京都の三多摩地域は、小・中・高校の教師による民間教育研究運動が盛んでした。全国組織である日本作文の会・教育科学研究協議会（教科研）・歴史教育研究者協議会（歴・教協）・全国生活指導研究協議会（全・生・研）などの支部があり、それぞれ月に一

度の研究会が開かれていました。夏休み・冬休みには2泊3日の合宿研究会が開かれ、小・中学校の教師たちが全国各地から集まりました。

セミナーハウスには、付属の施設として、少人数の合宿・研究ができる小さな会議室が、周囲の丘陵地に何棟も建てられていて、大学だけでなく、教育関係の職員にも解放されていました。全国規模で展開されていた教育研究のサークル活動には、最適の施設でした。

当時は、市内の書店には、教師向けの教科別の教育雑誌がずらりと並び、都下の小・中・高・大学の教師たちの書いた、教育実践記録が沢山掲載されていました。現在の書店にこうした書籍の姿はありません。私がホタルの生態研究で都下の小・中・高校を訪ねた折、教頭先生にお話をうかがうと、「現在は教育研究の資料は、電子版でいくらでも手にはありますので」ということですが・・・、確かに各教科、教科外活動の実践記録は見るができます。ところがその内容は、教師個人・教育研究団体の実践ではなく、公・私立学校の学校で発表・公開されているものがほとんどです。したがって、その多くが文部省の提示する内容から外れるようなものはみられません。

しかし、日本の民主教育、あるいは自治体の住民の求める自主教育という場合、これでいいのでしょうか、そうではなく、自主的・自治的教育という場合、それぞれ所属する自治体により、違いがあるはずで、それを見つけ出し、それに対応した教育内容を構築するのが、民間の教育研究団体の役目でした。

現在は、NHKをはじめ民間各社の放送や新聞でも、全国各地で実践・研究されているその地に合った自主的・自治的教育は、ほとんど眼にすることがありません。かつて民間教育研究といえば、教科教育と教科外教育と二つの領域に基づく研究団体があり、活発に活動し、第二次世界大戦で荒廃した日本の教育の復興に大きくかかわってきました。ところが現在、日本の小・中・高等学校で、不登校児が37万人を超えているという深刻な状況下で、その対策を知らせる報道番組に、大学の教授がでてきますが、校長以外の小・中・高の現場教師が登場する姿を見たことがありません。日教組も組合活動の中心となっている、年1回の全国教育研究集会は、ここ10年以上も放送・新聞報道に取り上げられたことがありません。

多摩の大地にドスンと打ち込まれた、当時の都内の大学の先生方が日本の教育の回復に込めた思いは消えてしまったのでしょうか……。セミナーハウスの建物を見つめながら、私は若かりし頃を思い起こし、しばし呆然とたちつくしていました。

八王子市寺沢川の小型ゲンジボタルその後

ゲンジボタルが羽化する季節、今年の八王子市では、熊の市街地への出没騒動が起きて調査が思うようにできませんでした。板当沢ホタル調査団時代を含めて初めてのことで、私の八王子での50年間を振り返ってみても全く経験したことのない異常事態でした。陣場・高尾山系に近い地域の小・中学校では、子供たちがかばんやランドセルにクマ除けの鈴をつけての集団登校です。

また今年の春は、南の国からわたってくるアカショウビンを見かけたことがなく、民家の軒先にみられるツバメの巣作りも激減しました。こんなことは今までありませんでした。5月といえば野鳥の巣づくり・子育てが盛んですが、今年はテレビや新聞でも野鳥の子育ての話がほとんどありませんでした。我が家の庭先に、渡り鳥の姿はたまにしかありません。「沈黙の春」でした。熊出没の可能性が有る陣馬・高尾山系はあきらめ、多摩丘陵をその分歩きました、この春は、丘陵の赤道で蛇の姿を見たことはありませんでした。こんなことも初めてです。谷戸の湧水や田んぼでカエルの姿も3回しか見たことはありません。

今年は多摩地方では、ゲンジボタルの羽化が異例の早期で、湯殿川では一か月も早く、5月のはじめに飛びました。そして5月の末には終了となり、例年最盛期となる6月に羽化したものは、わずかでした。こんな状況の中で寺沢川は・・・と心配しましたが、幸いなことに寺沢川は例年通り、6月に羽化の最盛期をむかえました。今年95歳の私は、毎晩通っての調査ができず、全体の羽化数は確認できませんでしたが、住民の方への聞き取り結果によると、例年どおり順調にゲンジの羽化が見られたそうです。

一つ残念だったのは、例の栗林の湧水の発生地では、春先の降水量が異常に少なかったために、湧水が枯れて干上がり、ゲンジボタルの羽化は見られませんでした。ただ、降水量の減少によって生息地が打撃を受けることは彼らは経験済みで、羽化を翌年に延ばして耐える術を身につけているので、大丈夫だと思います。来年度に期待したいです。

それから、多摩丘陵でのゲンジの羽化について、今年は珍しい話題が八王子市民の方からありました。7月の初めに、次のようなメールが事務局宛てに飛び込んできました。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

はじめまして、突然のメールで失礼いたします。

八王子越野、玉泉寺の近くに在住の2児の母です。

まず、メールさせていただいた経緯についてお知らせします。

先日7/4 お昼頃、マンションの外階段にてゲンジボタルの成虫を発見しました。

わが子が発見し、折れた木の枝にのぼらせ嬉しそうに蛍をもって帰ってきました。

観察のために、容器に少量の水をいれ風通しの良い暗めの場所で保護しています。

「こんな清流のない水気のないところにほたる？どこからきたのか？」と私は疑問に思いました。そのため、家の周りの方やわが子の学校の友達や、幼稚園の先生方にゲンジボタルどこにいるのか聞いてまわったのですが、長沼や中山や片倉、ほたるの里などすべて我が家より遠い場所ばかりで、皆目見当が付きませんでした。

どこに放してあげたら、このホタルは仲間に出会えるのか気になり、色々検索したところ陸生ホタル生態研究会さまの情報にたどりつきました。寺沢川からきたホタルさんなのかな考えたので、まだ発光しているうちに仲間の元へ放してあげようと思います。

虫好きの我が子には、ホタルはうれしい出会いでした。名前をつけ、図鑑で調べ、寝る前に暗い部屋の中で発光器を観察しています。1-2週間しか生きられないことを知り、悲しんだり、いろいろ感じとっています。

調査月報に出会えてことを感謝します。
ありがとうございました。

余談ですが、月報をいくつか読ませていただいたなかで、塩谷さんの名前があるのをみつけました。わが子が幼稚園に通っており、米づくりの時にお世話になったので、不思議なご縁を感じました。お伝えさせていただきたったので、メールをお送りしました。

.....

街中のマンションの階段口にゲンジボタルの成虫がいたとはびっくりです。早速訪ねてみました。この方のマンションは、月報に何度も登場している玉泉寺のお近くにありました。

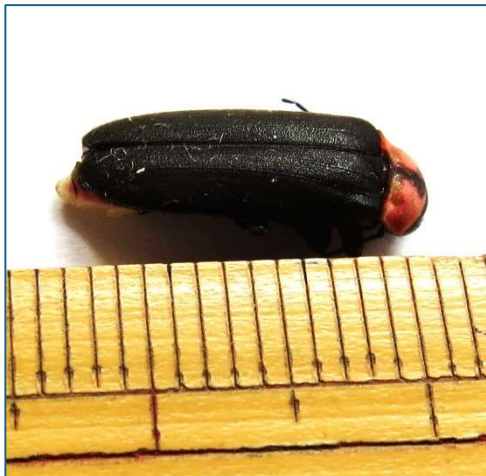
1：図 黄色円のところがゲンジのいたところ



2：図 1：図の拡大図 お子様の前の場所にゲンジがいました



3：図 発見されたゲンジボタル



4：図 腹板側の様子



これは普通にみられるタイプのゲンジボタルです。それにしても、全く水の無いマンションの階段にいたということは・・・、前の晩にマンションの照明灯にひかれて、近くの川から飛んできたのでしょうか？しかし、マンションの近くに川はありません。誰かが採ってきて、放したのでしょうか・・・。寺沢川から飛んできたのでは？とも思われますが、マンションと寺沢川の間には、標高100mほどの丘陵がデンと控えています。

このマンションの近くにホタルの生息できる湧水はないのか、調べてみました。一か所だけ民家の庭近くを流れるU字溝はありましたが、ここにはゲンジボタルは生息していませんでした。

来年6月の羽化の季節にむけて、またまた新たな研究課題が浮上してきました。楽しみです！！

あとがき

上に書きました通り、今年の春は異常事態続きだった多摩丘陵でした。そんな中で一つだけ明るいニュースがありました。寺沢川に生息する小型のゲンジボタルが、南浅川の支流の湯殿川でも確認されました。

そこで確認のために、この川の流域にある東京都の保全緑地「池の沢」を調べたところ、小型のゲンジボタルでした。池の沢に飛んでいるゲンジボタルについては、「高尾・浅川の自然を守る会」が高尾山麓の料理屋さんからいただいた西日本型である、と今まで思っていたのですが、そうではなく、昔からの地付きの小型ゲンジボタルが遺っていたとは・・・驚きです。池の沢のような谷戸は、市内にいくつもありますので、来年以降に調べてみれば、小型のゲンジボタルがまだ残っている希望が増えてきました。長生きしていて良かったです。